

市立

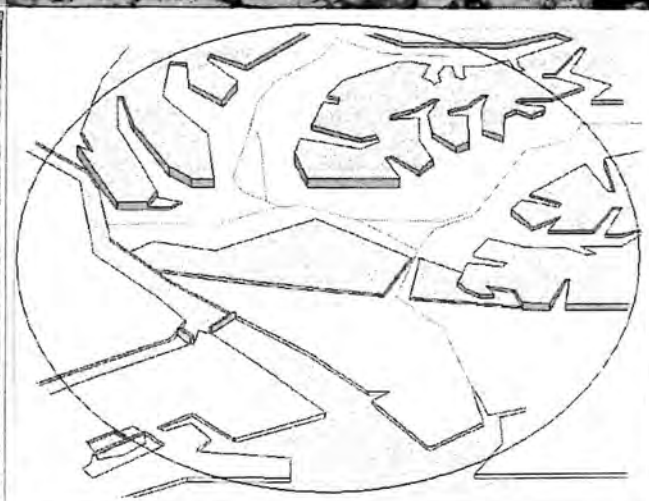
2005 年（平成 17 年）10 月 1 日発行

市川自然博物館

10-11 月号 （通巻 100 号） だより



自然博物館のめ



カネタタキ

左上：オス。背中に翅がある。
左下：身近な植込みで昼間から鳴く。

右上：メス。翅は退化し、全身、褐色。
右下：市内全域に幅広く生息。

今年度の特集は、小学校の教科書に関連した話題を紹介していきます。

第Ⅳ回は『保護の取り組み』です。

教科書に関連して IV



「保護の取り組み」



6年生の国語の教科書に「社会に目を向けて」という教材があります。文字通り6年生が社会に向ける目を養うという教材で、内容は子どもが千葉市の鳥・コアジサシの保護について調べ、考えをまとめていくというものです。生き物の保護や環境の保全というテーマは、子どもたちにとっては、とても身近な社会問題のようです。

●自然の話題が多い、国語の教科書

自然について扱う教科書というと生活科や理科が思い浮かびますが、意外に取り上げられているのが国語です。市内の公立小学校で使われている教科書を調べてみると、つぎのような内容が取り上げられていました。

1年生

「なにがかくれているのでしょう」

昆虫の擬態や保護色を写真で紹介

「うみへのながいたび」

ホッキョクグマの子育て

2年生

「すみれとあり」

アリによるスミレの種子散布

「鳥のちえ」

カラス、ササゴイ、ヤマガラの餌にまつわる行動

「さけが大きくなるまで」

回遊魚であるサケの一生

3年生

「かんさつしたことを」

昆虫の飼育観察をまとめる

「めだか」

天敵や季節変化に対するメダカの対応

「森のスケーター やまね」

ヤマネの生き残り術

「広い言葉、せまい言葉」

生物の分類を表す言葉の概念

4年生

「花を見つける手がかり」

モンシロチョウの花色識別実験

「とんぼの楽園づくり」

とんぼ池によるトンボの保護

5年生

「森を育てる炭作り」

炭作りが果たす森林保全の役割

6年生

「社会に目を向けて」

コアジサシの保護



△ コアジサシ

●個々の生き物から環境へ

自然を扱った国語の教材の流れを見ると、身近な生き物、なじみの生き物に目を向ける低学年、個々の種類や分類群の生態や習性を掘り下げる中学年、生き物を取り巻く環境にまで視野を広げる高学年と、学年に応じて内容が工夫されています。国語全体として意図されているのかどうかはわかりませんが、この流れは、自然について学んでいくためのプロセスとして見ても理にかなっています。

実際、3年生の「めだか」や4年生の「とんぼの楽園づくり」などでは、理科や総合的な学習まで含めた横断的な学習に発展する場合もあり、特に「とんぼの楽園づくり」では自然博物館へもたびたび講師の要請がなされています。標本や写真を使った出張授業は、はた目には国語に関連した授業には見えないかもしれませんが。

また、5年生の「森を育てる炭作り」では炭作りが林の保全につながる事が述べられています。特に薪炭林が、木の伐採とその後の萌芽更新によって維持されているという内容は、昨今言われている里山の保全に通じる内容です。

6年生の「社会に目を向けて」では、コアジサシそのものよりも、その保護に関する内容に力点が置かれています。なぜ減少したのか、保護するためにはどうすればいいのか……。小学校5、6年生から中学生くらいでは、絶滅に瀕する生物に関心を寄せる子どもが多く、自然博物館のホームページの絶滅危惧種を扱ったコーナーを使って調べ学習を行っている学校もあるようです。

●市川市内でのいくつかの事例

6年生の事例では、実際に千葉市で行われているコアジサシの保護が取り上げられていました。しかし、もっと身近にも絶滅に瀕する生物を保護する取り組みがあります。市民が中心となった事例もあれば、行政による取り組みもあります。ここでは、自然博物館がなんらかの形でかかわっている事例について、いくつか紹介します。

1. フジバカマの保護

フジバカマは河川敷などに生育する野草で、全国で絶滅が心配されています。博物館では、江戸川に新しい堤防が建設された際、工事によって埋まってしまう株を保護して、市民の方に里親になっていただくという取り組みを行いました。堤防完成後には株を現地に戻し、工事の

フジバカマ 通信 第8号

2002年12月1日 自然博物館 金子謙一

前号お知らせした、現地のフジバカマです。春取りをしていただいた成果もあってか、とてもきれいに咲きました。新堤防と、坂川の旧河道の土手にはさまれた一部に、まとまった群落が点々と見られ、ちょっとしたフジバカマ散策コースみたいになっていました。また、フジバカマの花にはなぜひが蜜がよく集まり、キタテハをはじめとする蝶々が一層の彩りを添えていました。

なお、ここに予定されていた遊歩道は中止となり、フジバカマが生える土手と現作の車道との間に柵を設ける以外は、ほぼ現状のまま維持されることになりました。また、里親のみなさんが増やした株を植えられるような花壇も設けられますので、お楽しみに。



さて、いよいよ株を増やす時期が近づいてきました。下記のようにいくつかの方法を考えましたので、都合のいいやり方でお願ひします。

- ①. ご自分で株分けする
開封の資料を参考に、ご自分で株分けして増やしていく方法です。なお、増えた分について博物館で引き取ることもできます。
- ②. 博物館で株分けする
ご連絡いただければ取りにうかがいますので、いったん博物館に戻していただいて、こちらで分けてから、再度、今期と同じ程度の数のプランターをお預けする方法です。
- ③. そのままにする
もう1年くらいは、いまのプランターをそのまま継続していただいても大丈夫なので、今期は特に株分けをしないという方法です。

なお、たぐんタネができていていると思いますが、これは採っていただいても、そのままにしてしまっても、どちらでも結構です。基本的には、株分けで増やしていきます。また、増やした株の扱いや、今後のことなどは、あらためてご連絡していきますので、よろしくお願ひします。

△ フジバカマ通信

範囲外にあった群落とあわせて、その後も保護を図っています。また、工事中は「フジバカマ通信」を発行して里親さんへの情報提供を行いました。

2. アオカワモツクの保護

長田谷津の水路に自生する淡水性の藻類・アオカワモツクは、一時、わずか2株しか確認できない状態にありました。その後、減少の原因となった水質悪化を改善するために、上流部の池にいた400匹のコイを移動させたり、水路脇を走る污水管の詰まりを頻繁に解消するようにしたため、対策実施後は50株、100株と順調に数を増やしました。



△アオカワモツク

3. イノカシラフラスコモの保護

車軸藻類の一種であるイノカシラフラスコモは、現在、市川市内のただ1ヶ所だけが、全国で唯一の生育地とされています。その保護のために、生育地を管理している市民団体の協力のもと、保護保全のための検討委員会を設置し、生育環境の分析や群落の増殖などの対策を進めています。

4. トビハゼの保護

江戸川放水路に生息するトビハゼは、東京湾のトビハゼ個体群として絶滅が心配されています。かつて護岸工事によっ

て生息地である干潟が失われることになった際には、市民・行政が一体となって保護に取り組み、生息に適した干潟の造成や工事期間中のトビハゼの飼育などに取り組みました。現在では、江戸川放水路でのトビハゼの生息は安定し、特別な取り組みは行われていませんが、保護が必要な魚であるとの認識は徹底され、さまざまな形で常に配慮が払われるようになりました。

5. ヒヌマイトンボの保護

江戸川の実徳橋付近のアシ原だけに生息する小型のトンボ・ヒヌマイトンボは、将来の実施が計画されている堰の改築によって、生息地が失われる可能性があります。そのため、江戸川産のヒヌマイトンボが失われることのないよう、行政が主体となり、研究者などの支援を得て、ヒヌマイトンボの継続飼育と、代替のアシ原による新生息地造成が進められました。保護策の成果が確認されるのはまだ先ですが、地元の小学生がヒヌマイトンボ飼育舎を訪れ、めったに見ることのできないトンボを間近に観察するなど、今後も地域を挙げての取り組みが進められることが期待されます。



△ 飼育舎での観察



街かど自然探訪

きたこくぶん

北国分・北国分の緑地

北国分には、市川の緑を残していくために第1～4緑地があります。その中でも第4緑地は、広い雑木林になっており、春から秋にかけて、野草の花や実をゆっくりと観察しながら散策することができます。クヌギやコナラなどの木々がたくさんあり、秋にはドングリを拾うのには良い場所になっています。また実のつく植物も多く、秋から冬には野鳥たちの休息地になっており、バードウォッチングにも最適です。



くすのきのあるバス通りから No.45

ヘビの抜け殻？

9月の末に気温が30℃を越し、次の日は急に涼しくなりました。キンモクセイの花の香りがその日からいっせいにあちこちでしています。

庭のシソの花に、シジミチョウや小さなハチがよく来ます。娘が「ヘビの抜け殻がある。」と言うので、見ると5cm位のものが穂のあたりに引っかかっています。茶色で、逆立っているようなウロコの背中が割れていて、手があったらしい穴があります。どうやら、カナヘビのよ

うです。衣替えだったのででしょうか。

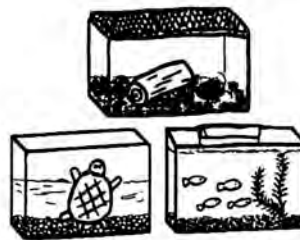
庭に埋めたギンナンを取り出してみましたが果肉が取れていません。袋に入れて剥いて取り除いたほうが早かったかな。

(M. M.)



△これがカナヘビ(写真は自然博で撮影したもの)

博物館で こんないきもの飼ってます！



モツゴ

「クチボソ」の呼び方のほうが馴染みのある方も多いと思います。群れる性質は野外でも水槽の中でも同じで、ほとんど一ヶ所に集まっています。そのため、一見すると臆病そうですが、意外と大胆な面があります。餌を入れると、一緒に飼っている体の小さなカダヤシを蹴散らし、ザリガニがすでに抱え込んでいる魚の切り身を横からつつきます。大きなハサミを振り上げたすきをねらって横取りし、口先で押すようにして運びます。



△大きな水槽でいろいろいっしょに飼っています

〇〇

こんなふうには飼っています

〇〇

※ ※ ※ レイアウト ※ ※ ※

- ・隠れ場所など…金魚を飼うようにして飼えます。物陰に隠れたりはありません。むしろ、広い水域が好きなので、水草を水面に浮かべるぐらいにして、ごちゃごちゃしないほうが良いようです。
- ・容器など…飛び跳ねて水槽から出てしまうので、蓋は必ずします。
照明はあったほうが、魚がきれいに見えます。
- ・その他…中ほどの深さに集まっているので、水底で暮らす生き物、例えばドジョウやアメリカザリガニなどを同じ水槽で飼うことができます。

※ ※ ※ 餌 ※ ※ ※

毎日1回、金魚用のえさや乾燥エビの粉をたっぷりやります。

ほかに週に2回、解凍した冷凍アカムシを数分で食べきる量をやります。



◆大町公園より

- ・フクロウを3羽見ました(7/15)。1羽は頭がまだ灰色がかって見え、若鳥のようにみえました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・あちこちでヘイケボタルの光が見られるようになりました(7/27)。昼間、蒸し暑いくらいの方がよく飛びます。

小川 晃(自然博物館)

- ・キイロスズメバチがアブラゼミの死骸を解体していました(8/23)。園内をひと回りして戻ってきたら、まだ解体を続けていました。巣と何度も往復したのでしょう。

金子謙一(自然博物館)

◆大町周辺より

- ・松飛台駅付近の広場にツマグロヒョウモン♂が一頭みつけられました(7/15)。観察園内でも見られることでしょう。

土居幸雄さん(大町在住)

- ・昼過ぎ頃、梨畑の方からアブラゼミの鳴き声が聞こえてきました(7/17)。

西 博孝(自然博物館)

◆柏井町より

- ・シナガワハギが咲いてました(8/15)。大柏川(リハビリパーク入口付近)。黄色い小さい花から、甘い香りがほのかに漂っていました。

吉田 毅さん(柏井町在住)

◆堀之内貝塚周辺より

- ・ヒグラシが鳴き始めました(7/13)。

池田真由美(歴史博物館)

- ・フクロウ1羽がとまっていました(7/23)。

あたりで、換羽により落下した風切羽を2本拾いました。7月30日には、すぐ近くの枝にツミ1羽がやって来てフクロウを威嚇しました。ツミは、しきりに鳴き声を出しましたが、フクロウはまったく相手にしませんでした。

◆じゅん菜池公園より

- ・なんと今年初めてとなるカワセミ♂1羽を見ました(7/23)。

◆江戸川周辺より

- ・水面すれすれを、イソシギが声を出しながら下流方向へ飛びました(7/10)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

- ・カンタン♂がメマツヨイグサにとまっていました(7/23)。

道下 誠さん(中国分在住)

◆市川・八幡より

- ・市川1丁目、八幡神社、ツクツクホウシの鳴き声を聞きました(8/10夕方)。翌日の朝、真間山近くでも聞きました。

M.T.さん

- ・午後11時頃、市役所駐車場でウロウロしているハクビシンを見ました(8/10)。

西山健二さん(市川在住)

◆江戸川放水路より

- ・水際に今年生まれの小さいトビハゼがたくさん飛び跳ねていました(8/27)。

矢渕まゆみさん(春日部市在住)

梅雨明け後は猛暑の日が続きましたが、涼しい日もありました。



行事案内



観 察 会 お申し込みが必要な行事です。

- いきもの観察会 …内容は親子向け。大人の方だけでもご参加ください。 定員：先着親子 10 組
 ○じっくり観察会 …内容は大人向け。親子でもご参加ください。 定員：先着 20 名

	テ ー マ	対 象	日 時	場 所	受付開始日
じっくり観察会	地 形 の 観 察	一般	12月11日(日)午前	大町周辺	11月19日～
いきもの観察会	いきものの冬越し	親子	1月15日(日)午前	柏井雑木林	12月17日～

〒申し込み方法〒

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

季節を感じる 散 策 会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テ ー マ	日 時	場 所
色づき始めた雑木林	11月20日(日) 午前10時～11時30分	柏井雑木林
野鳥のにぎわい	12月18日(日) 午前10時～11時30分	長田谷津

長田谷津 ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日 時 10月23日⑩、11月27日⑩、 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館に電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いを して下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 11月6日⑩、12月4日⑩
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館まで電話でお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
 第17巻 第4号 (通巻第100号)
 発行日/平成17年10月1日
 編集・発行/市立市川自然博物館
 〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
 ☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetu/haku>

